



しちりみはま

58

七里御浜



- 所在地／熊野市、南牟婁郡御浜町、紀宝町
- 規模／幅0.1km、長さ22km、樹齢1～80年
- 指定／吉野熊野国立公園、防風・保健保安林
- 問合せ／熊野農林商工環境事務所 森林・林業室 電話 0597-89-6137

三重県



立地環境

三重県熊野市から南牟婁郡紀宝町に至る、三市町の熊野灘に面した海岸沿いの22kmにわたるクロマツ林です。

松原の今昔物語

熊野灘からふきよせる強烈な潮風から地域をまもってきた松林

七里御浜は、紀州徳川初代藩主・徳川頼信が入国したさい、同行した新宮藩主・水野重中が、浜松から取り寄せたクロマツの苗木を植栽したのがはじまりとされ、見事なクロマツ林が続く海岸でした。しかし、昭和30年代はじめからマツクイムシが猛威をふるい、高木のマツのほとんどが姿を消しました。今では、常緑広葉樹主体の混交林です。

そこで、かつての松林を復活させようと松林造成がなされ、徐々にかつての松林が形成されつつあります。最近では、地域が主体となってみんなで守り育てる活動が活発になされています。

この地域は熊野灘の外洋に面し、強い潮風が終始吹きつけます。防風林は住民の生活を守る、なくてはならない松林です。また、吉野熊野国立公園に含まれ、熊野川から運ばれた玉砂利で覆われた美しい海岸との絶妙な景観を形成しています。

COLUMN

「熊野古道」は熊野三山に参るための道です。この古道の代表的なルートの一つが紀伊半島を東回りする「伊勢路」で、七里御浜の「浜街道」を通り熊野三山の1つである熊野速玉大社に至ります。この浜街道のはじめには、熊野灘の荒波に削られた「獅子岩」・花の窟（いわや）があり、中程には七里御浜松原遊歩道（約3km）が整備されています。また、七里御浜はウミガメが産卵する海岸としても保全され、パトロールなど保護活動が続けられています。

ACCESS

●電車の場合

JR 紀勢線熊野市駅下車（南紀特急停車）。以降、新宮駅まで普通列車で阿田和駅など適宜下車

●車の場合

伊勢道「大宮大台」から国道42号線で熊野市へ。以降国道42号線沿い南下10～20分
駐車場有り（道の駅ウミガメ公園）

